

平成27年10月28日

高大接続システム改革会議「最終報告」に向けて

一般社団法人 国立大学協会

現在、国立大学協会では、入試委員会を中心として、高大接続システム改革会議「中間まとめ」に関する各会員校に対するアンケート調査を実施しつつ、「最終報告」に向けて国立大学協会としての提言を公表すべく準備を進めているところであり、とりまとめた段階で公表することとしたいが、現時点においては、以下の点について意見を述べることにしたい。

1. 高大接続システム改革の方向性について

- ・国立大学としては、高大接続改革実行プランが提起する現状認識と問題意識、改革の方向性に賛同。

2. 三つのポリシーに関するガイドラインの策定について

- ・国において策定するとしているガイドラインは、各大学の個性、創造性、自由度を阻害するものでないこと。
- ・ガイドラインは認証評価の評価基準にも大きな影響を及ぼすことが想定され、策定に当たっては慎重な議論が必要。

3. 大学入学希望者学力評価テスト（仮称）について

- ・新たな試験の内容は、文理全般にわたる幅広い基礎的な学力の評価とともに、「知識・技能」を基盤として「思考力・判断力・表現力」を中心に評価することができるようにすべき。
- ・問題作成に当たっては、評価基準等を早急に明確化した上で、大学入試センター試験の実績も活かし、関係者の英知を結集して取り組む必要。

4. 個別大学における入学者選抜改革について

- ・各大学の個別の入学者選抜は、一律の方法によるのではなく、多様な人材の選抜を可能とする多様な方法を認めるべき。

5. 大学入学者選抜の実施に係る新たなルールの構築について

- ・一般入試、推薦入試、AO入試の区分を廃止する新たなルールは、複数の受験機会の確保や選抜方法の多様性が担保されるような仕組みとすべき。

6. 国立大学協会としての関与について

- ・国立大学協会としては、実効性ある改革が実現されるよう、以上の点に係る議論・検討に積極的に参画。